

学校名	研究課題	研究手法
湯涌小・芝原中学校	教科一般	小中連携

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 9年間を見通した子ども像を目指した取組の工夫

授業において、月別学習目標が達成できるよう、発問、学習活動、板書の方法などを研究授業、相互授業参観週間を通して授業改善を行った。

①小中合同研究授業

要請訪問を全職員が実施した。さらに、小中から一人ずつ全職員が参観する研究授業を実施した。学校研究の重点「目的意識の明確なペア・グループ活動」「発達段階や個に応じた話型の工夫」「ICT、図表、ホワイトボード等を活用した説明」に視点を置き、授業整理会を実施した。



②小中相互授業参観週間

小中併設の特色を生かし、6月と11月の2回、小中相互授業参観週間を設けた。週案を職員室内に掲示し、どの授業がどのような内容で行われているかをわかりやすいようにした。また、参観した時間がわかるようにシールを貼り、偏りがないようにした。お互いの授業を参観し、「授業参観シート」で良かった点や改善点を授業者と共有し、授業づくりに生かした。

授業参観シート(11月)

月	日	時間	参観者	授業内容	参観ポイント
11月	10日	10:00-11:00	湯涌小 全職員	算数 図形と測量	図や式を使って自分の考えを説明できた。同じ角度でもいろいろな組み合わせ方を考えていた。
11月	11日	10:00-11:00	芝原中 全職員	国語 説明文	1年生の初めての説明文単元で文章中の聞かれていること(問い)と答えを穴埋め形式で書き込めるワークシートを使用した。

(2) 重点2 小中連携のための

組織体制の活用と実践の工夫

小研究会と中研究会を活用しながら、発達段階に応じた実践事例を検討した。実践事例集を学期ごとに集約・見直ししながら、有効な発問の工夫や授業展開を研究した。



金沢ベーシックカリキュラム実践推進事業について

研究の重点や月別学習目標が達成できるような実践事例を蓄積する

(5月～7月)

教科	発問・声かけ・ワークシート工夫など	児童生徒の反応
算数	<ul style="list-style-type: none"> 1組の三角定規を組み合わせていろいろな角度をつくる学習で、考えを図や式、言葉で説明させた。 わり算の筆算の学習で、100の束、10の束、ばらのカードを使って説明させた。 平行四辺形やひし形の辺の長さや角の大きさを答えるときに、理由も答えさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 図や式を使って自分の考えを説明できた。同じ角度でもいろいろな組み合わせ方を考えていた。 束を分ける操作を考えることができ、スムーズに筆算を説明することができた。 平行四辺形やひし形の特徴を捉えて、理由も答えることができた。

理科	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分の考えと友だちの考えを書く欄を用意した。 自分たちで話し合う場面を積極的に取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの発表を聞いて疑問点を質問する児童ができた。 こちらが促さなくても、自分たちで話を切り出して意見を言い合う場面が見られるようになった。
国語	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の初めての説明文単元で文章中の聞かれていること(問い)と答えを穴埋め形式で書き込めるワークシートを使用した。 グループでインタビューをし合う際、役割分担をし、ねらいを示した。 	<ul style="list-style-type: none"> どの子ども文章の中の問いと答えを的確に読み取ることができた。3回目パターンで書き込みをするので書き慣れて成果物のクイズブックにも自主的に意欲的に取り組むことができた。 いつもより緊張感のある話し合いになった。自分のねらいのために進んで質問を考え、インタビューすることができた。

(3) 重点3 家庭や地域社会との連携

学校における教育活動への理解と協力が得られるよう、授業を公開したり学校だよりや学習だよりを発行したりするなど連携の在り方を研究した。

①学校だよりや学習だよりの発行

学校行事や月予定など学校全体の活動をお知らせする「湯涌・芝原便り」を毎月発行した。また、学習の様子について「湯涌小 学習だより」「芝原中学学習通信」をそれぞれ発行した。学習の取組の振り返りや活動のようすなどをお知らせした。



②授業公開

授業公開では、ほぼすべての保護者が参観した。参観後は、懇談を行い日頃の児童生徒のようすや家庭でのようすなど情報を交換した。

2 取組の検証

金沢型学習スタイル自己評価シートから相手や目的に応じたわかりやすい説明を促すために ICT や図表、ホワイトボード等を活用したり、終末のまとめにつなげるために具体的な活動を取り入れたりと小中共通した実践を行うことができた。

金沢型学習スタイル自己評価シート

		1 学期	2 学期
相手や目的に応じたわかりやすい説明を促すことができた (ICT、図表、ホワイトボード等を活用した説明)	小	83.3%	95.8%
	中	84.4%	99.0%
学習課題に正対したまとめを自分の言葉で書かせるためにキーワードを示したり図や表などで整理したりすることができた	小	91.7%	91.7%
	中	75.0%	94.8%

児童生徒アンケートからは、話し合う活動については、肯定的な割合が小中とも 100% であった。また、発表についても、肯定的な割合が小中とも 100% であった。自分の言葉でのまとめや振り返りについては、肯定的な割合が小学校は 96%、中学校は 91.7% であった。

また、保護者アンケートから教育活動への関心の高さを見ることができる。

保護者アンケート

学校の教育活動に満足していますか	小	95.8%
	中	100%
学校は保護者と協力して教育活動を行っていますか	小	95.8%
	中	100%

3 成果と課題

小中連携による「小中合同研究授業」や「小中相互授業参観」の実施、全教職員による研究授業をすることができた。さらに、校内研修会によって全職員が同じ方向性で授業づくりを行うことができた。授業では、話し合う活動や発表、自分の言葉でのまとめや振り返りなど共通実践することができた。

その一方で、授業の中で児童や生徒も ICT を活用できるようにすることや用語を使った説明や文章での発表や理由を言うなど授業の中でもっと話し合わせる必要があることが見えてきた。